

研究推進校事業報告書

<取組と成果のポイント>

- 「カリキュラム・マネジメント」を生かした指導方法の工夫
 - ・ テーマを決め、小単元（ユニット）を組むことで、道徳の授業と講演会や学校行事等とを関連させることができ、つながりをもたせた指導ができるようになった。また、テーマに沿った小単元内の道徳の授業や講演会の内容から、多面的・多角的な見方、考え方を養うことにつながった。
 - ・ 外部講師を招き、生徒や保護者向けに講演会を行うことで、授業では得られない考え方や生き方について学ぶことができた。また、教員対象の研修に外部講師を招くことで、教員自身の授業力向上にもつながった。
- 評価方法の工夫
 - ・ 一枚ポートフォリオ評価（OPP）を用いることで、自己評価や自分の考えを蓄積し、長期的な活動の中でも視点を見失うことなく自分の成長を振り返ることにつなげることができた。また、教師側も生徒の学習前後の感想や考えから、生徒の成長を評価につなげることができた。
 - ・ 教師自身も生徒の感想が自分の授業を振り返るきっかけとなり、授業改善につなげることができた。

1 研究推進校の概要

学 校 名	所 在 地	電 話 番 号	生 徒 数	備 考
一宮市立西成中学校	一宮市西大海道字柏木15番地	(0586) 28-8755	419人	

2 研究課題

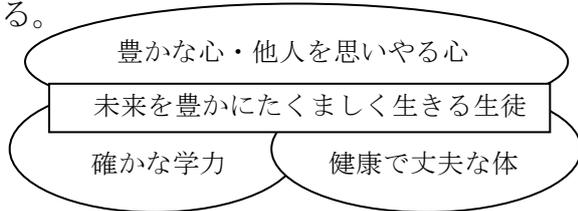
- (1) 「カリキュラム・マネジメント」を生かした指導方法の工夫
 - ① 道徳の授業と各教科、特別活動、総合的な学習の時間、学校行事などとの関連付けの工夫
 - ② 講師の話聞き、その内容を地域や保護者を巻き込んで行う授業の工夫
- (2) 道徳科の評価を考える
 - ① 生徒が学習の見通しをもったり、振り返ったりする活動場面の設定
 - ② 道徳ノート、道徳プリントなどを利用した生徒の自己評価の蓄積による、生徒の変容の把握

3 研究主題

『特別の教科 道徳』を要とした道徳教育の充実
ーカリキュラム・マネジメントを生かした効果的かつ多様な指導方法と評価の工夫・改善ー

4 研究のねらい

本校は、「命を尊び、夢と希望を持ち、未来を豊かにたくましく生きる力を身に付けた生徒の育成」を教育目標としている。教育目標の具現化をめざし、生徒一人一人を大切に、教職員のチームワークのもと、創意工夫し、着実に豊かな教育活動を推進している。



◎校訓 — めざす生徒像

自主（確かな学力）・・・自ら進んで学び、深く考える生徒
敬愛（思いやる心）・・・礼儀正しく、自他を尊重する生徒
健康（健やかな体）・・・命を尊び、心と体を鍛える生徒

◎めざす学校像

生徒～学びたい学校
保護者～学ばせたい学校
教職員～勤めたい学校

◎めざす教職員像

学び続ける教職員
協力し合う教職員

この教育目標および目指す生徒像に迫るために、今年度の道徳教育の重点目標を次のように設定した。

- ・豊かな心をもち、たくましく生きる生徒を育てる。
- ・自他の生命を尊重し、節度ある生活態度と規範意識を身に付けた生徒を育てる。
- ・思いやりの心をもち、互いに助け合い励まし合う生徒を育てる。
- ・人間愛、自然愛を通して、国を愛し国際人として貢献できる生徒を育てる。
- ・「私たちの道徳」を活用し、自らの課題や目標を見つけ、よりよく生きようとする生徒を育てる。

以上のことを踏まえ、研究のねらいを次のように設定した。

<ねらい1：カリキュラム・マネジメントを生かした指導方法の工夫>

- ・各学年の道徳の年間計画から小単元（ユニット）を作成し、道徳の授業だけでなく、各教科、総合的な学習の時間、学校行事と関連させた授業展開を行う。
- ・外部講師として大学教授や市教育委員会指導主事、道徳教育先進校の校長先生を招き、主体的・対話的で深い学びができるような手法を取り入れた道徳の授業の展開、発問の構成、評価の在り方等について研修を進めていく。また、道徳教育の研究発表、一宮市夏季集中研修の道徳研修講座等に参加し、本研究に生かす。
- ・学校運営協議会やPTAの方々にも呼びかけ、生き方や命、絆に関わる講演会を開催し、学校、地域、保護者が一体となって生徒の心の教育を進めていく。また、学校公開日における授業参観では、全校で道徳の授業を行う。保護者にも一緒に考えていただく機会とする。さらに、地域で働く方に講師を依頼し、職業や勤務について講義していただく機会を設ける。

<ねらい2：評価方法の工夫>

- ・外部講師や一宮市教育研究会の道徳研究部会から示される評価のあり方を参考にしながら、生徒にとっても教師にとっても有効な評価の工夫に取り組む。

5 研究経過と計画

月	実施内容	行事等
5～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員への研究内容、研究目的の周知と共通理解 ・研究組織と研究計画の策定 ・道徳年間計画の作成 ・研究主題・仮説の設定 ・学校公開週間（道徳一斉公開授業参観） ・校内研修会 （講師：一宮市立浅井中学校長 山田貞二先生） ・意識調査（県教育委員会作成） 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会 ・オリエンテーション合宿（1年生） ・マナー講座（2年生） ・修学旅行（3年生） ・学校公開週間 ・福祉実践教室（1年生） ・一宮東特別支援学校交流会（2年生） ・読み聞かせ
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート（校内作成） 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動激励会
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季集中研修講座への参加 ・1学期の取り組みに対する資料収集と分析、改善点の考察等 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季集中研修講座 ・薬物乱用防止教室 ・セルフディフェンス講座（1年生）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践と研究協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同あいさつ運動 ・体育祭
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践と研究協議 ・道徳授業公開（学校訪問） ・研究推進校視察受入 ・市内道徳教育先進校参観（一宮市立浅井中学校） 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習 ・地域ごみゼロ運動
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開週間（道徳授業公開） ・外部講師による校内研修会 （講師：上越教育大学大学院教授 早川裕隆先生） 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ ・小中合同あいさつ運動 ・合唱コンクール
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート（校内作成） ・2学期の取り組みに対する資料収集と分析、改善点の考察 	<ul style="list-style-type: none"> ・一宮東特別支援学校交流会（2年生） ・PTA合同あいさつ運動
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究と研究協議 （講師：市教育委員会指導主事） ・外部講師による講演会 （講師：吉本興業 オレンジ 田中哲也氏） ・意識調査（県教育委員会作成） 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による道徳の授業 （講師：NPO 法人日本移植プロジェクト理事 加藤みゆき氏） ・外部講師による講演会 （講師：一宮いのちの大学代表 金田政実氏） ・成果報告書作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から学ぶ会（1年生）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開日 ・外部講師による講演会 （講師：「生」教育助産師グループ OHANA） ・1年間の取り組みの反省と改善点の公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・予餞会 ・卒業式 ・立志式（2年生） ・まとめの会（1年生）

6 取組と成果

(1) 研究組織

研究主任を中心に職員を以下の三つの委員会に分け、研究を進めた。

- ① カリキュラム・マネジメント委員会
- ② ポートフォリオ研究委員会
- ③ 授業法研究委員会

(2) 研究内容

① カリキュラム・マネジメント委員会

この委員会では、来年度の教科化に向け、生徒の心の変容をどう評価につなげるかを協議してきた。今年度は1年間で二つのテーマを設け、テーマごとに小単元（ユニット）を作成することにした。小単元に組み込んだ行事や、道徳の授業を終えた後に感想を書き、その感想から心の変容を見ていく形で実践した。二つのテーマとユニットは以下のとおりである。

テーマ	学年	時数	主 題	出 典	内 容 項 目
第1次実践 【夢】 5月～11月	1年生	1	オリエンテーション合宿・発志式	学校行事	1-(2) 目標の実現
		2	わたしは言った	明るい人生	4-(4) 集団生活の向上
		3	励まし合い、高め合える生涯の友を	私たちの道徳	2-(3) 友情・信頼
		4	ライバル	道徳大好き!	2-(3) 友情・信頼
		5	合唱コンクール	キラリ道徳	4-(4) 集団生活の向上
		6	合唱コンクール	学校行事	2-(3)・4-(4)・4-(7)
	2年生	1-1	思いやる心をもって	明るい人生	2-(2) 人間愛
		1-2	役割と責任を自覚し集団生活の向上を	私たちの道徳	1-(3) 自由と責任
		1-3	おくりもの	オリジナル資料	2-(2) 思いやり・感謝
		1-4	おじの笑顔	オリジナル資料	2-(2) 思いやり
		1-5	一宮東特別支援学校交流会	学校行事	2-(2) 思いやり
		2-1	マナー講座	学校行事	2-(1) 礼儀
		2-2	鉄塔に登る男	オリジナル資料	4-(5) 勤労
		2-3	職場体験学習	学校行事	4-(5) 勤労
		2-4	おくれてきた客	NHK for school	4-(1) 遵法の精神
		2-5	カメラマンの選択	NHK for school	1-(3) 自由と責任
	2-6	最後のリレー	NHK for school	4-(3) 公正・公平	
	2-7	合唱コンクール	学校行事	2-(3)・4-(4)・4-(7)	
	3年生	1	バイオリンを手がけて	明るい人生	1-(4) 真理の探求
		2	高校説明会	学校行事	1-(2) 目標の実現
		3	高校体験入学	学校行事	1-(2) 目標の実現
		4	あきらめないで	キラリ道徳	1-(2) 目標の実現
		5	今、輝いて生きる	明るい人生	1-(2) 克己と強い意志
		6	道はいつもひらかれている	明るい人生	1-(4) 真理の探究

テーマ	学年	時数	主 題	出 典	内 容 項 目
第2次実践 【命】 11月～3月	1年生	1	一通のライン	オリジナル資料	4-(3) 公平・公正
		2	1995年1月17日	明るい人生	2-(2) 人間愛
		3	4千頭の命	明るい人生	3-(1) 生命の尊重
		4	白紙のドナーカード	問題解決的な学習で創る道徳授業	3-(1) 生命の尊重
		5	道徳教育講演会	学校行事	3-(3) よりよく生きる喜び
		6	動物実験	オリジナル資料	3-(1) 生命の尊重

		7	地域の方から学ぶ会	学校行事	3-(3)生きがい
		8	明日もまた生きていこう	オリジナル資料	3-(3)よりよく生きる喜び
		9	外部講師による特別道徳「命の授業」	学校行事	3-(1)生命の尊重
第2次実践【命】 11月～3月	2年生	1	白球のライバル	NHK for school	2-(3)友情・信頼
		2	一宮東支援学校交流会	学校行事	4-(3)公平・公正
		3	十四歳、最後の手紙	心つないで	3-(1)生命の尊さ
		4	道徳教育講演会	学校行事	3-(3)よりよく生きる喜び
		5	一冊のノート	私たちの道徳	4-(6)家族愛
		6	まとめの会	学校行事	1-(2)希望と勇気
	3年生	1	たったひとつのたからもの	心つないで	3-(1)生命の尊さ
		2	十四歳、最後の手紙	心つないで	3-(1)生命の尊さ
		3	ハゲワシと少女	心つないで	3-(1)生命の尊さ
		4	道徳教育講演会	学校行事	3-(3)よりよく生きる喜び
		5	ニワトリ	心つないで	3-(1)生命の尊さ
		6	ドナーカード	心つないで	3-(1)生命の尊さ

各学年のユニットの中から実践の一部を紹介する。

(ア) 1年生

《オリエンテーション合宿 発志式》

1年生は第1次実践【夢】の副題を『未来予想図 互いに励まし合い、高め合っていくクラスをつくろう』とした。そこで、「集団活動を通してお互いを理解し、認め合う中で、信頼関係を深めさせ、協調性や自律性を育むこと」を目的として、5月初旬にオリエンテーション合宿を設定した。初日の夜に行った発志式〔写真1〕では、個人で中学校生活1年目の志を発表するとともに、学級目標を発表する場とした。各学級が合宿までに学級目標を決め、発表の仕方を工夫し、練習時間を設け、クラスの団結力の向上を図った。当日は、どのクラスも生き生きと発表する様子が見られた。また、一人一人の目標発表も真剣に聞くことができ、「発表した目標の実現に向けて頑張りたい」「友達みんなの夢を応援できる人になれるようがんばりたい」など、充足感のある感想も多く見られた。



〔写真1: 発志式の様子〕

《地域の方から学ぶ会》

1年生は第2次実践【命】の副題を『生まれてきた意味 自分らしく一生懸命生きるということ』とした。そこで、「目標を実現しようと懸命に生きている地域の先輩方の人生観に触れ、自らの生き方を考える機会にすること」を目的として、2月上旬に地域の方から学ぶ会〔写真2〕を設定した。地域で働く7名の方〔表1〕に講師を依頼し、職業や勤務について、講義していただいた。写真や映像、実際に使用している道具などに触れながらの体験を通して、生徒たちは「働くことの大変さがよく分かった」「将来、誰かの役に立ちたいと思った。自分に何ができるかをよく考えたい」など講師の方々の生き方に触れ、自分の将来を考えたいという意欲的な感想が多く見られた。



〔写真2: 消防士の防火服体験の様子〕

〔表1〕

	職 種	店 舗 名	講 師
1	小売業	フラワーガーデン美よし	玉腰 嘉行 氏
2		野田屋菓子舗	野田 京一 氏
3	公務員	動物保護管理センター	西川 祐美 氏
4		浅井・西成消防出張所	河原 研人 氏
5	介護福祉士	社会福祉法人 礼和会	内藤三枝子 氏
6	看護師	一宮西病院	長瀬 仁 氏
7	建設業	(株) スギウラ	杉浦 正 氏

(イ) 2年生

《マナー講座～職場体験》

2年生は、第1次実践【夢】の副題を『どんな人になりたい?』とした。そこで、「働くことの楽しさや苦勞、やりがいを肌で感じ取ること」を目的として、夏休みに、職場体験を設定した。

職場体験に行く前に必要なマナーを身に付け、意識を高めるために、株式会社I B A代表取締役の水田有美子氏をお招きし、マナー講座〔写真3〕を行った。あいさつの仕方やすてきな笑顔の作り方、お辞儀の仕方など相手に伝わる印象について1時間実演を交えてご指導いただいた。生徒の感想には「背筋を伸ばして、ハキハキとした返事で相手もハッピーにさせます」と意欲的に職場体験に臨もうとする生徒が多く見られた。



〔写真3:マナー講座の様子〕

8月の職場体験に向けて、自分の興味のある職業を中心に、活動場所を決め、事前挨拶も含めて合計4日間の体験〔写真4〕を行った。生徒の感想は、「職場の方がお客様のために一生懸命働く姿に感動した」「将来について考えるきっかけになった」など、自分の将来を見据えた活動になったことがわかるものが多かった。



〔写真4:職場体験の様子〕

《一宮東特別支援学校との交流会》

2年生は、第2次実践【命】の副題を『自分の命・生きる目的「夢」「希望』』とした。そこで、「誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること」を目的として、12月上旬に一宮東特別支援学校との交流会を設定した。6月に行った交流会は、本校の生徒が一宮東特別支援学校へ出かけたが、今回は、一宮東特別支援学校の生徒を本校に招き、ゲームを通して交流を図った〔写真5〕。事前に、どのような内容で楽しんでもらうかをクラスごとに考えた。6月の交流会の経験から、交流する生徒の特徴を考え、ルールのわかりやすいものを準備した。当日、交流会を終えての生徒の感想は、「一宮東特別支援学校の子どもたちが、積極的に僕たちとかかわって、一緒にゲームをしてくれてとてもうれしかった」



〔写真5:交流会の様子〕

「キラキラした笑顔で一宮東特別支援学校の子が楽しんでゲームをしている姿を見て、自然と笑顔になれた」など、この交流会を通して互いに心を通じ合わせたことを喜ぶ内容のものが多かった。

(ウ) 3年生

《高校説明会～体験入学》

3年生は第1次実践【夢】の副題として『さまざまな障壁にもくじけることなく目標や夢を実現させるために…』とした。そこで、「上級学校や学科の理解を深め、主体的に進路を選択する意欲を喚起すること」を目的として、6月に近隣の高校を招いて、高校説明会を設定した〔写真6〕。保護者にも参加を呼びかけ、進路について親子で話し合う機会にもなっている。生徒がより主体的に参加できるように事前に調べ学習を行い、質問を考えて説明会に臨むようにした。生徒の感想からは、「直接、高校の先生に質問ができ、高校生活についてイメージをもつことができた」「将来の進路のために、中学校での勉強がとても大切な基礎になっていることがわかった」「焦らずコツコツと勉強を頑張りたい」など、前向きに進路について考えるきっかけになったことがよく分かった。



〔写真6:高校説明会の様子〕

夏休みに行われた学校説明会や体験入学には、述べ447名の生徒が参加し、高校や専修学校の様子を見て、「説明会に参加し、高校の様子がよく分かった。受験校を決める時の参考にしたい」という内容の感想が多かった。

《3年生道徳教育講演会》

3年生は第2次実践【命】の副題として『自分の、他人の、動物の、かけがえのない生命を尊重するために』とした。そこで、「自己の生命の尊厳、尊さを深く考える」を目的として、卒業式前の2月末に金田政実氏（一宮いのちの大学代表）を招き、『自立前夜～人生の先輩として思春期の君たちに伝えたいこと～』と題して道徳教育講演会を企画した。事前に講師の金田氏と打ち合わせをした際に、「いただいた短い時間で私からすべてのメッセージを伝えるのは難しいため、受験を控え、苦しい時期だからこそ、事前に伝えることのできるメッセージがあるから、学年のフロアに掲示して紹介してほしい」と依頼を受けた〔写真7〕。掲示後、3年生の生徒たちも一つ一つのメッセージを読み、頑張ろうという気持ちをもてたと担任に話す生徒もいて、講演会を楽しみにしている様子が見られた。



〔写真7:金田氏からのメッセージ〕

（エ）外部講師による講演会及び研修会

これまで紹介した方を含め、第1次実践のテーマ【夢】、第2次実践のテーマ【命】に沿った講演会を開催することを企画し、以下の方々に講演会を依頼した〔表2〕。現職教育講演会として、『特別な教科 道徳』について」と題し、講師の先生を2名お招きし、授業力向上を図った。また、本校代表教師による研究授業を行い、研究協議の助言者として一宮市教育委員会指導主事2名をお招きし、ご指導、ご助言をいただいた。

〔表2〕

テーマ	対 象	所属	演題・講師	講演日
夢	3年生徒 保護者	公立高校 7校 私立高校 3校	学校の特色や教育課程、学科について	平成30年 6月14日
	2年生徒	株式会社I B A	職場体験学習前マナー講座 代表取締役 水田有美子氏	平成30年 6月28日
命	全校生徒 保護者	よしもと クリエイティブ・エージェ ンシー	「笑いでいじめをふっ飛ばせー!!」 オレンジ 田中哲也氏	平成31年 1月18日
	3年生徒 保護者	一宮いのちの大学 代表	「自立前夜」 ～人生の先輩として思春期の君たちに伝えたいこと～ 金田 政実氏	平成31年 2月22日
	2年生徒 保護者	「生」教育助産師 グループ	助産師が伝える「いのちの授業」 OHANA	平成31年 3月15日
	1年生徒 保護者	N P O法人日本 移植 プロジェクト	「命の授業」 理事 加藤みゆき氏	平成31年 1月31日 2月1日
現職教育	教 師	一宮市立浅井中 学校	「特別な教科 道徳」の評価 ～指導と評価の一体化をめざして～ 校長 山田 貞二先生	平成30年 5月24日
		上越教育大学大 学院	「特別の教科 道徳」における 役割演技の効果的な活用について 教授 早川 裕隆先生	平成30年 11月22日
		一宮市教育委員 会	研究授業助言者 指導主事 細田 和樹先生 指導主事 森 一寿先生	平成31年 1月24日

《道徳教育講演会（全校）》

1月18日（金）に、よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属のお笑いコンビ：オレンジの田中哲也氏を招き、『笑いでいじめをふっ飛ばせー!!』と題し、講演会を行った。当日は、希望のあった保護者も参加し講演を聞いた。第1部は、ご自身のいじめにあった経験から得たことについてお話しいただいた。その後休憩を挟んで、相方の泉氏も合流し、オレンジと生徒、職員で交流を行った〔写真8〕。講演を聞いて、

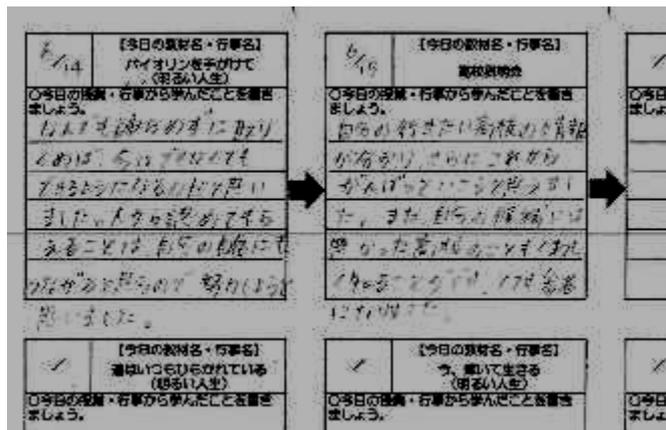


〔写真8:道徳教育講演会の様子〕

生徒からは、「田中さんのお話を聞いて、困っている友達や1人ぼっちの子がいたら、自分から声をかけたい」「田中さんは相方の泉さんの言葉で命を救われたので、友達の言葉をしっかり聞いて自分が元気のないときに、何度も思い返せるといいなと思った」などの感想があり、周りの友達への接し方などについてじっくり考える時間となった。

② ポートフォリオ研究委員会

生徒の心の変容をどう評価につなげるかを協議する際に、どのように記録し、評価につなげるかを考えた。以前のように1時間ずつワークシートに感想を書かせ、それを集めて評価してはどうかという意見もあったが、この方法では生徒の心の変容を見るのが難しく、十分な評価ができないという意見も出た。そこで、以前より道德の研究を推進している浅井中学校長の山田貞二先生を本校の現職教育講演会にお招きし、ご講演をいただいた。その後協議した結果、山田先生に紹介していただいた一枚ポートフォリオ評価（OPP）〔写真9〕を取り入れることにした。



〔写真9: 生徒が記入したOPPシート〕

早速、学年ごとの小単元に合わせてポートフォリオを作成し、行事や道德ごとの感想を記入し、担任が保管することにした。各学年の第1次実践が終了し、ポートフォリオへの感想や振り返りの記入も完了した。そこで、山田先生から学んだ評価文の作成の仕方参考にし、各担任が数名分の評価文の作成を行ってみた。現在、カリキュラム・マネジメント委員会では、市内道德主任者会で配付された資料も参考にしながら、第1次実践の評価文例の作成を進めている。また、教師の授業力向上を図るために、OPPを授業の実践と振り返る材料としても活用している。

③ 授業法研究委員会

この委員会では、主に各学年の小単元で扱う教材の検討や生徒から多面的・多角的な意見を出させるための手立てについて情報交換している。各学年の主な実践例を紹介する。

（ア）1年生：ローテーション道德〔写真10〕

1年生の道德の授業では、ローテーション道德を取り入れている。ローテーション道德とは、学年主任や学年所属の先生方もクラスを交代で回り、道德の授業を行うことである。担任は、自分のクラス以外の生徒にも道德の授業を行うことになる。同じ資料を使った授業でも、発問や求める価値への迫り方などクラスごとに工夫が必要となるため、学年会でも積極的な意見交換が見られるようになった。また、1人の教師が同じ内容で4回（クラス数分）授業を行うことができるため授業準備の回数が減り、負担軽減にもなっている。



〔写真10: 学年主任による道德の授業〕

(イ) 2年生：授業の振り返りと改善（授業の板書を用いての検討会）

2年生は〔写真 11〕のように板書にマインドマップを取り入れるなどして、板書による授業の振り返りの研究・実践を積み重ねている。授業後に、自分の授業の板書を撮影し、学年部会等で授業の振り返りを行っている。また、授業ごとにワークシートやポートフォリオに書いた生徒の感想から、本時の授業でどのくらい求める価値にせまれていたかどうかを協議している。



〔写真 11: 授業後の板書の写真〕

(ウ) 3年生：小単元の組み替え

3年生は、小単元通りに計画を進める中で、10月中旬に「明るい人生」の『今、輝いて生きる』を授業で行う予定であった。しかし、学年部会で、授業の進め方を検討した際に、「題材は難病に負けずに立ち向かう主人公の姿を取り上げたものだが、生徒の現実とかけ離れている部分もあり、ねらいとする価値に迫れるか」が課題になった。話し合いの結果、この授業の前に、目標の実現をねらいとした教材『あきらめないで』〔写真 12〕を実施することで、目標の実現のためには強い意志が必要であることを学ばせ、『今、輝いて生きる』の授業を行う際に「克己と強い意志」の価値に迫れるのではないかと考えた。『あきらめないで』の授業の生徒の感想からは「目標を達成するには、歯を食いしばってがんばらなければいけないと思った」など、強い意志をもつことの大切さを感じているものも見られ、次の授業につながる結果となった。



〔写真 12: 授業後の板書の写真〕

〔写真 12: 授業後の板書の写真〕

(エ) 現職教育講演会〔写真 13〕

具体的で効果的な授業法を学ぶため、上越教育大学大学院教授の早川裕隆先生をお招きし、「『特別の教科 道徳』における役割演技の効果的な活用について」という演題で御講演をいただいた。「一冊のノート」を題材に登場人物の気持ちを考えながら資料の最後の場面の「ぼく」と「おばあちゃん」を演じるという内容で、90分という短い時間で模擬授業を交えながらご指導をいただいた。職員のアンケートからは、役割演技の効果的な活用法が大変勉強になったという感想とともに、先生の発問や工夫された切り返しを聞きながら、自分が資料に引き込まれ、学びの多い大変有意義な時間となった。



〔写真 13: 早川裕隆先生による講演会〕

〔写真 13: 早川裕隆先生による講演会〕

(オ) 研究授業

ここまでの実践を踏まえ、【命】をテーマにした内容で1・2年生の道徳で研究授業を行った。この研究授業は小単元に組み込み、ローテーション道徳の一つにして学年で計画した。

I 1月24日（木）の実践に向けて

授業者は、中堅の先生で行い、若年層の研修の場を兼ねた。1年生で1名、2年生で1名を選び、【命】のテーマのもと、どんな主題にするかをそれぞれ考えた。2年生は、11月の現職講演会で早川先生に教えていただいた「一冊のノート」で授業を行うことにした。また、1年生は、「ドレイズテスト」という動物実験をテーマにした内容で授業を行うこととした。

研究の学びを深めるために、一宮市教育委員会に依頼して指導主事2名に来ていただき、ご指導、ご助言をいただいた。

II 生徒の多面的・多角的な考えを引き出すために〔写真14・15〕

両教諭とも、生徒の気持ちの揺れ動くさまを観察しながら授業を進めようと考えた。全体で授業を進めながら、リアルタイムで気持ちの変化がわかる方法を授業法研究部会等で検討した結果、心情円盤を用いて生徒の気持ちの変化を見ることにした。



〔写真14:1年生の授業の様子〕



〔写真15:2年生の授業の様子〕

III 研究授業を終えて

《1年生部会の研究協議会》

グループ協議では、以下のような意見がでた。

- 心情円盤を活用することで生徒の気持ちや、変化の様子が見やすかった。もう少し、周りの生徒同士で共有できるとよかった。
- 補助発問で気持ちが揺さぶられる場面が何度もあり、真剣に考える生徒が多くいた。しかし、本音が見えづらかった。

指導主事の先生からは、次のようなご指導をいただいた。

- 生徒が発問に対して考えるのがとても楽しそうだった。考えは同じでも理由は違うので、心情円盤の微妙なずれを生かして、周りの生徒と共有するとよい学びにつながったのではないか。

《2年生部会の研究協議会》〔写真 16〕

グループ協議では、以下のような意見が出た。

- ・ 心情円盤を用いて生徒の気持ちの変化を見ることは、とても有効であった。他者の意見を聞いて、割合を変えるタイミングがもう少しあるとよかった。
- ・ 補助発問で考えさせたおぼあちゃんの気持ちを考える時間がもう少し欲しかった。



〔写真 16:グループ協議後の発表の様子〕

指導主事の先生からは、次のようなご指導をいただいた。

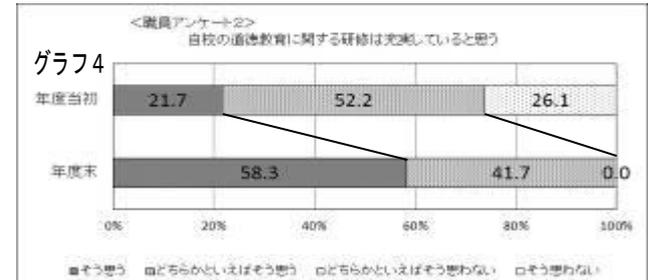
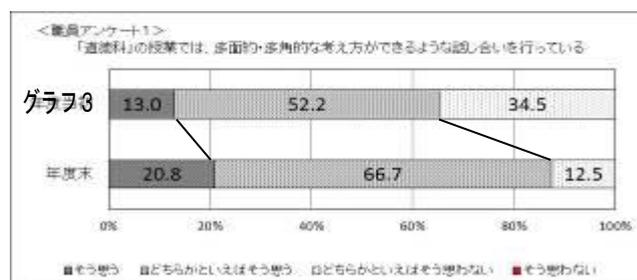
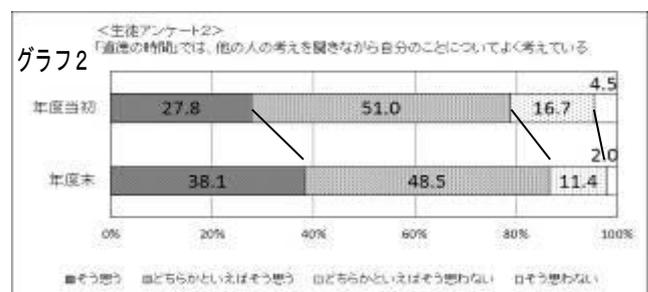
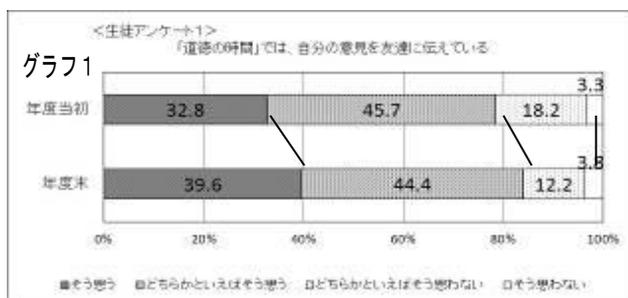
- ・ 学級経営がしっかりしていて、生徒が安心して意見を出せる雰囲気となっていた。道徳の授業が成立する基盤がしっかりしている。
- ・ 生徒の意見に対しての切り返しはよかったが、生徒と先生のやり取りだけで終わってしまった。より多面的多角的に考えさせるのであれば、生徒から出た意見を、他の生徒へ切り返して広げていく場面があってもよかったのではないか。

(3) 成果と今後の課題

本研究の成果としては以下のことが挙げられる。

- ① カリキュラム・マネジメントの視点から、小単元(ユニット)を組んで実践を行った結果、6月と12月に行った道徳に関する意識調査を見ると、「『道徳の時間』では、自分の意見を友達に伝えている」と感じている生徒の割合が増加している〔グラフ1〕。また、「『道徳の時間』では、他の人の考えを聞きながら自分のことについてよく考えている」と答えた生徒の割合も増加している〔グラフ2〕。さらに、職員に行った意識調査〔グラフ3〕で「『道徳科』の授業では、多面的・多角的な考え方ができるような話し合いを行っている」の回答にもあるように、教師自身も多面的・多角的な考えが出るような話し合いを行う工夫をしたことも、生徒アンケートの結果につながったと考えることができる。よって、道徳の授業だけでなく、行事や講演会と関連付けて小単元を設定したことが、多面的・多角的な見方、考え方につながり、他者との意見交流ができることへつながったと考えられる。

また、外部講師の活用と地域との連携に関しては、「自校の道徳教育に関する研修は充実していると思う」〔グラフ4〕との回答からも、教師自身の学びの場となったことがわかった。



② 一枚ポートフォリオ評価（OPP）を用いることで、自己評価や自分の考えを蓄積し、3か月～4か月の長期的な活動の中でもテーマの視点を見失うことなく自分の成長を振り返ることにつなげることができた〔写真 17〕。また、教師側も生徒の学習前後の感想や考えから、どのように変化、成長したかを評価につなげることができた。

さらに、教師自身も生徒の感想が自分の授業を振り返るきっかけとなり、授業改善につなげることができた。

道徳科「学びの振り返りシート」

学習前 6 月 21 日 「なにがすごいことを やりきったとき。テスト勉強 をがんばって、良い点数を とれたときとか、今まで 練習してきたものが うまくなったとき。」	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 20px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p style="margin: 0;">学習テーマ</p> <p style="margin: 0; font-size: 2em;">「夢」</p> <p style="margin: 0;">やりがい・達成感って なんだろう？</p> </div>	学習後 11 月 13 日 全員でいっしょに支え合って、 最後まで物事をなしとげた時。 はたまりとした結果が出なくても、 自分の決めたことを最後まで やり切れたら、それだけで満足 できると「最後のリレー」を見学した。
---	--	--

●学習前・学習後に書いた文章を比べて、思ったことや感じたことを書いてみよう。

学習前は、どちらかという自分事だけを考えていた感じだったけど、学習後は周りの人のことも考えている感じ。例えば、合唱コンクールでみんなと合唱してきて、「自分一人だけじゃダメなんだ」と思い、仲間の大切さをもっと実感した。そのおかげで、仲間と助け合い、支え合うことが大事という考え方になった気がする。

◆先生からのメッセージ

自分だけが達成的な事や、感じる事ではない達成感をおぼえてね！
 いっしょに支え合うことで、2倍の自信とやりがいが増えているからね！

〔写真 17: 生徒の一枚ポートフォリオ〕

課題としては、職員への意識調査「自校では、家庭・地域社会と連携した道徳教育が進められていると思う」の「そう思う」と回答した職員は0%であることから、家庭・地域社会との連携が十分に取組めていなかったと考えることができる〔グラフ 5〕。今後も、より家庭、地域社会を巻き込んだ取り組みにつなげられるよう、小単元を見直し、子ども、家庭、地域社会とともに道徳教育を進めていけるよう取り組んでいきたい。

